

第2節 国 語

1. 出題のねらい

1. 学力の観点

学習到達度調査の実施にあたり、小学校国語においては、(1)関心・意欲・態度、(2)表現の能力、(3)理解の能力、(4)言語に関する知識・理解・技能の4観点の調査を予定したが、(1)の関心・意欲・態度を測定することについては、ペーパーテストでは限界があるとの判断から、今回は調査項目から除外することとした。今後の課題である。

2. 調査領域

(1) 音声言語、(2) 説明的文章、(3) 文学的文章、(4) 言語事項の4領域とし、新学習指導要領の実施を目前に控えているので、現行の学習指導要領とともに新学習指導要領における取り扱いにも対応できるように調査項目を作成した。

(1) 音声言語……「栄養士の話」を2回聞き、ア)話の要点を聞き取る力、イ)質問の内容のまとめを準備する力、ウ)相手の立場を考え質問する力、エ)自分の考えを持って表現する力を調査対象にした。要点を聞き取る力と自分の考えを持って表現する力に注目したい。

(2) 説明的文章……『飛び方のひみつ』について、ア)細部の正確な読み取り、イ)語句の意味、ウ)接続語の使い方、エ)段落相互の関係等を調査する。特に、文脈に即して細部に注意する力、段落相互の關係に気をつけて要点を読み取る力に注目している。説明的文章における「課題文」に対する「まとめ」との段落相互の關係に注意する力が大切である。

(3) 文学的文章……『この先ゆきどまり』の読み取りの問題である。ア)語句の意味、イ)細部の読み取り、ウ)心情の変化の読み取

り、エ)続き話の創作などを調査対象にした。文学的文章の読み取りでは、語句の意味、使い方、細部の読み取りに注意しながら、主人公の心情の変化を読み取る必要がある。なお、内容の理解に基づいて続き話を創作することは、表現力を測定するのに適切な問題と考える。文章の内容に即しながら自由に想像し、しかも、50字程度という制限を設けている。

(4) 言語事項……ア)漢字の読み、イ)漢字の書き取り、ウ)ローマ字の読み・書き、エ)国語辞典の活用(活用形の理解)等を調査する。漢字については「配当漢字は正しく読め、書けると同時に、使っていく」というねらいがある。漢字は「読む・書く」以外にも、いろいろな場面で学んでいる。これまで学んだ漢字を意識して活用してほしいという願いがある。二通りに読む漢字は、その漢字により通過率に差が出るだろう。漢字の書き取りも同様なことが予想される。

ローマ字は、4年生で学習する内容であるが、指導する時数も限られており、理解度を測定するのにも、結果はある程度予測されるが、ワープロにしろパソコンにしろローマ字入力を行う機会が多い現在、その必要性は高まっている。今後の指導のあり方を考えるのに重要な資料となるであろう。

国語辞典の活用は、現在4年生から求められているが、新学習指導要領では指導目標・内容が2学年ずつ示されているので、活用の時期が早まると思われる。動詞の活用形の学習も早まることだろう。以上、出題のねらいを述べてきたが、調査結果が今後の国語指導に活用されることを切に願っている。

(河西泰道 ベネッセ教育研究所顧問)

※「出題の方針」は、p.67を参照。

2. 通過率・得点分布

1. 通過率

表2-2-1は、設問別の通過率を示したものである。【音声言語】領域についてのみ

準正解を設定した。【文学的文章】領域を除けば、領域内の通過率に大きなばらつきがみられる。また、【言語事項】領域の「ローマ字の読み・書き」の通過率の低さが他の設問と比較して際だっている。準正解を設定した

表2-2-1 国語の設問別通過率

(%)

大問－小問	領 域	内 容	通過率	正解率	準正解率
[1]	(1) ① (1) ② (2) (3) (4)	話の内容の聞き取り	90.3	83.0	7.3
		話の内容の聞き取り	79.1	51.2	27.9
		質問の仕方	50.4	50.4	—
		質問の内容	56.3	56.3	—
		自分の考えの表現	78.9	40.1	38.8
[2]	(1) (2) (3) (4)	細部の正確な読み取り	52.4	52.4	—
		語句の意味・使い方	60.1	60.1	—
		接続語の使い方	85.1	85.1	—
		段落相互の関係	20.3	20.3	—
[3]	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	語句の意味・使い方	68.2	68.2	—
		細部の読み取り	64.4	64.4	—
		心情の変化の読み取り	65.6	65.6	—
		心情の変化の読み取り	63.5	63.5	—
		細部の読み取り	57.6	57.6	—
		続き話の創作	56.7	56.7	—
[4]	(1) ①	漢字の読み	66.1	66.1	—
	(1) ②	漢字の読み	83.3	83.3	—
	(1) ③	漢字の読み	41.6	41.6	—
	(2) ①	漢字の書き取り	73.7	73.7	—
	(2) ②	漢字の書き取り	67.0	67.0	—
	(2) ③	漢字の書き取り	74.8	74.8	—
	(2) ④	漢字の書き取り	60.6	60.6	—
	(2) ⑤	漢字の書き取り	55.7	55.7	—
	(3) ①	ローマ字の読み・書き	47.7	47.7	—
	(3) ②	ローマ字の読み・書き	33.3	33.3	—
	(3) ③	ローマ字の読み・書き	36.9	36.9	—
	(3) ④	ローマ字の読み・書き	32.4	32.4	—
	(4) ①	熟語の書き取り	48.3	48.3	—
	(4) ②	熟語の書き取り	62.9	62.9	—
	(4) ③	熟語の書き取り	30.8	30.8	—
	(4) ④	熟語の書き取り	76.4	76.4	—
	(5) ①	活用の理解・辞書の利用	82.8	82.8	—
	(5) ②	活用の理解・辞書の利用	47.3	47.3	—
	(5) ③	活用の理解・辞書の利用	69.1	69.1	—
	(5) ④	活用の理解・辞書の利用	83.4	83.4	—

【音声言語】領域の「自分の考えの表現」については、通過率78.9%に対して正解率40.1%にとどまっている。自分のオリジナルな考えをわかりやすく記述することの難しさがうかがわれる。なお、採点対象からは除外したが、【説明的文章】領域で「内容整理」として質問項目を設けた。その選択肢別の反応を図2-2-1に示しておく。どのような方法で文章を整理するのかという学習活動をめぐって、児童の思考のタイプが反映されているのではないだろうか。

2. 得点分布

図2-2-2は、国語の得点分布を示した

ものである。いずれの問題も、通過した場合を1点として個人の得点を算出した。これを見ると、ほぼ正規分布に近い山型となっている。平均点は21.2点、標準偏差は7.25であった。

3. 算数と国語の相関

算数と国語の関係をみるために得点の散布図を図2-2-3に示した。相関係数は、0.690である。図からも明らかなように、小学校の算数と国語には正の相関関係がある。

(諸田裕子 お茶の水女子大学大学院博士課程)

図2-2-1 説明的文章：内容の整理 選択肢別反応率

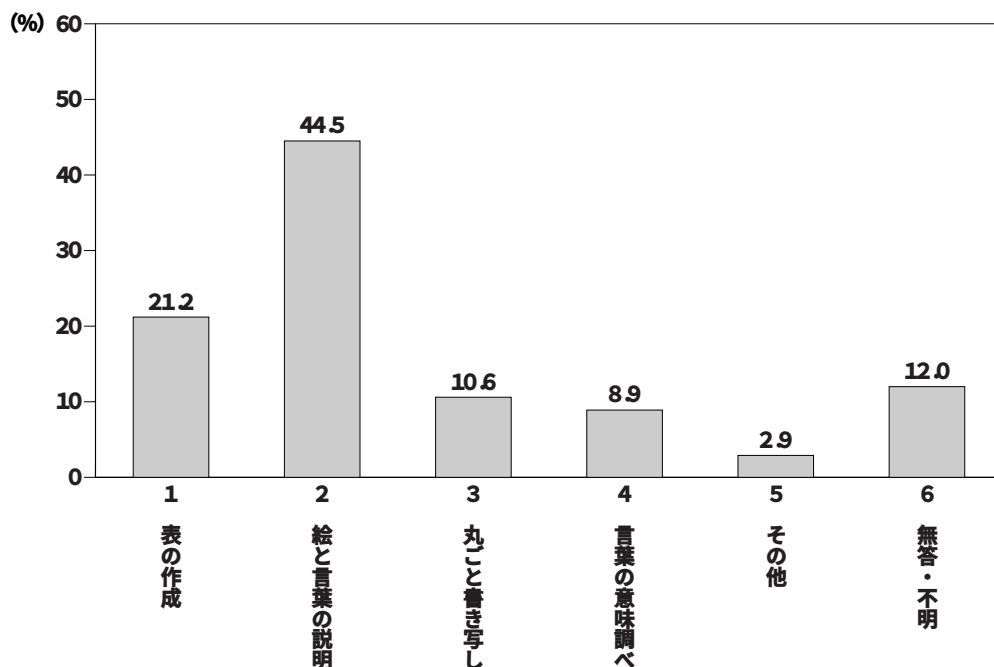


図2-2-2 国語の得点分布

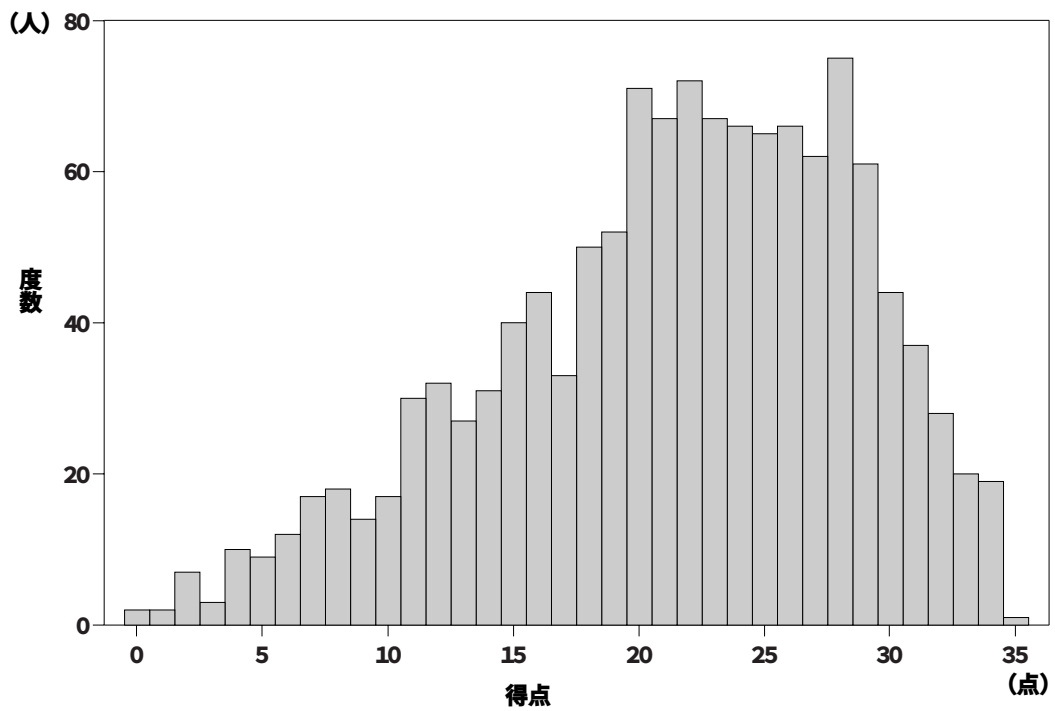
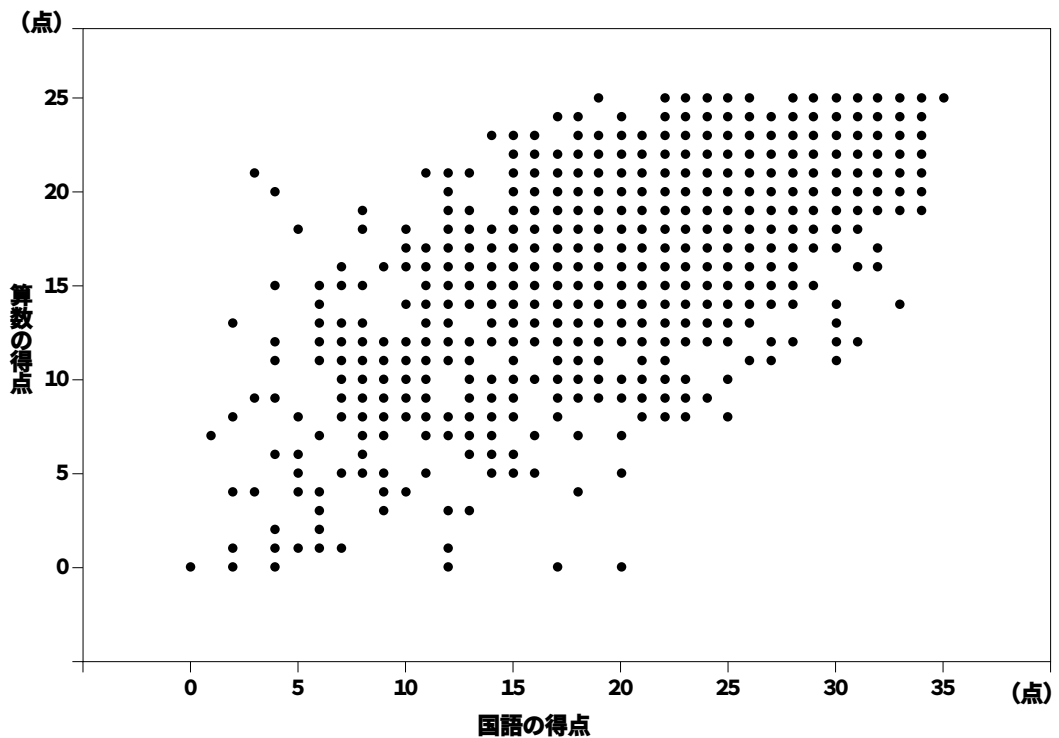


図2-2-3 算数得点と国語得点の相関



資料●調査票（到達度テスト・小学5年生国語）

◆国語◆

□【放送問題】

（ナレーター）

最初に、話を聞き取る問題を始めます。調査票はとじたままでしてください。
大事だと思うところは、調査票の裏紙のメモらんにメモを取りながら、テープを
聞いてください。

あなたのクラスに栄養士の先生が来て、健康に良い食事の仕方について、お話
をしてくれることになりました。お話は二回くりかえします。聞いた後、調査票を
聞いて、後の問題に答えましょう。

栄養士の先生の話・一回目

（栄養士）

食事は、わたしたちが健康な生活を送るために、たいへん大切なものです。で
すから、みなさんも、食事の大切さを理解し、正しい食事の仕方をおぼけるよう
にしましょう。

食事の仕方について、今日は二つお話しします。

一つ目は、決まった時こくは食事をすることです。みなさんの中には、朝食を
食べないで学校に来る人がいるようですが、それは食事の仕方として正しいもの
ではありません。わたしたち人間の体にはリズムがあります。規則正しい生活をして、
決まった時こくは食事をしないと、体のリズムがこわれてしまうのです。
体のリズムがこわれると、機嫌にかなりやすくなり、健康な生活が送れなくなり
ます。

二つ目は、栄養のバランスがとれた食事をすることです。最近では、野菜をほと
んど食べずに肉ばかり食べる人が多いようです。しかし、わたしたちは体の調子
を整えるために、ビタミンなどを多く含む野菜もたくさん取らなくてはなりま
せん。栄養のバランスを考えて食事をすることが、わたしたちの健康を保つため
には必要なのです。

みなさんも、健康に良い食事の仕方についてクラスで話し合ってみてください。

（ナレーター）

今のお話をもう一度くりかえします。

栄養士の先生の話・二回目

（栄養士）

省略

（ナレーター）

それでは、調査票を聞いて、□の問題に答えてください。

- 1 今のお話を聞き取ったことをもとに、後の問いに答えましょう。

- (1) 栄養士の先生はお話の中で、食事の仕方で気をつけることを二つ挙げています。それは、どうすることですか。それぞれを に書きましょう。

【解答例】

決まった時にくに食事をすること。

栄養のバランスがとれた食事をすること。

- (2) 一週間後に、クラスの代表が栄養士の先生の所に行つて質問することにしました。質問に行く前、クラス全員でどのようなことをしておけばよいですか。次の中から二つ選び、 に記号で答えましょう。

- ア クラス全員が聞きだいたいを出し合つて、質問することを知る。
 イ 質問に行くクラス代表だけで、質問する内容をまとめる。
 ウ できるとき、事前に読むことは本で調べたり、たんぱの先生に聞いたりして、あらかじめ調べておく。
 エ クラス全員から出た質問すべてを栄養士の先生に聞く計画で、質問を準備する。

ア

ウ

- (3) 今回のお話について栄養士の先生にする質問としてよいと思うものを次の中から二つ選び、 に記号で答えましょう。

- ア 健康を保つために、食事以外で注意しなければならないことは何か。
 イ 食事の仕方では注意することは、そのほかになんかあるのか。
 ウ 栄養のバランスがとれた食事をするためには、野菜のほかになんかものを食べたらよいのか。
 エ 人間の体の仕組みは、どのようなになっているのか。

イ

ウ

【分野】 音声言語

【内容】 話の内容の聞き取り

【出題のねらい】 話の中心点を聞き取る。

【採点基準】 ①「決まった時にくに食事をする」という内容を書いているれば正解（十分満足）。「決まった時にくに」のみしか書いていないものや、簡潔にまとめていないものは、準正解（おおむね満足）とする。②「栄養のバランスをとる」という内容を書いているれば正解。「栄養のバランス」のみしか書いていないものや、簡潔にまとめていないものは、準正解とする。

栄養士の先生は「食事の仕方で気をつけることを、今日は二つお話します」といった後、「一つ目は…」「二つ目は…」と説明している。この中心点を聞き取れていないものは、不正解（努力を要する）とする。

【分野】 音声言語

【内容】 質問の仕方

【出題のねらい】 質問の内容のまとめ方や準備の仕方を理解する。

【採点基準】 二つともできて正解。

【分野】 音声言語

【内容】 質問の内容

【出題のねらい】 相手や場に応じ、内容の軽重を考えて質問する。

【採点基準】 二つともできて正解。

資料●調査票（到達度テスト・小学5年生国語）

(イ) 栄養士の先生のお話を聞いて、あなたならどんな食事の仕方であそぶか
いと思つてほしいのですが。三十字くらいで、自分の考えを自由
に書きましょう。

【解答例】

好	き	き	ら	い	を	な	く	し	て	、	き
ら	い	な	も	の	も	し	っ	か	り	食	べ
る	よ	う	に	し	た	い	。				

三十字

2 次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

① とんぼは、空中に停止することや、急角度に方向を変えることも、高速で
飛ぶことも、そして、急に飛び立つこともできます。とんぼは、ほかの多く
の昆虫にはまねのできないような、器用な飛び方をするのでできるのです。

② では、とんぼは、なぜ、^③こうした器用な飛び方をするのできるの
でしょう。

③ まず、頭に思いうかぶのは、グライダーのように細長い^④体に、やなぎ
の葉のような幅広い羽を四まいつけた、体の形のことでしょう。いかに、
空を飛ぶのにふさわしい形といえます。

④ しかし、体の形だけでは、なぜ、あのように器用な飛び方ができるのか、
よくわかりません。⑤、^⑥とんぼやんまが飛んでいる様子を、特別なカ
メラで記録して、くわしく調べてみました。

⑤ 飛んでいるときの羽の動きをよく見ると、四まいの羽は、ななめ前方に向
かつて打ち下ろされています。後ろ羽が先に動き、前羽は少しおくれて打ち
下ろれます。羽を上げるときには、上げやすいようにひねります。数えて
みると、一秒間に、三十回もはばいています。

……………く中略……………

⑥ このように、とんぼは、前羽と後ろ羽を別々に、すばやく動かして飛んで
います。ですから、あのように器用な飛び方をするのできるのです。

⑦ 空中を飛ぶほかの昆虫、たとえばちょうち、うらわのような前羽と後ろ羽
を、いっしょに動かしてはばきます。別々に動かすことはできません。一
秒間にはばたく回数も、十回ほどです。ですから、ふわふわとした飛び方
になり、とんぼのように器用には飛べないのです。

(取 附「飛び方のひみつ」より)

● ① ～ ⑦ はだん紫の番号を空しています。

(注) *1 グライダー＝エングスや空を自由に滑る飛行機で羽を飛ばさず飛行。

*2 とんぼやんま＝体長約1センチメートルのオオアゲハの幼虫のこと。

【分野】音声言語

【内容】自分の考えの表現

【出題のねらい】自分の考えを明確に
し、整理して表現する。

【採点基準】二十字以上五十字以内で、
食事の仕方というテーマにそつて「空
をつきたいこと」が書かれていれば正
解。単に本文のくりかえしとなる内容
は、準正解とする。文意が伝わらない
ものや、字数の指定を大きく逸脱して
いるものは不正解とする。

- (1) ①「二つした器用な飛び方」にあてはまるものを次の中から二つ選び、☐に記号で答えましょう。

- ア グライダーのように細長い体をしている。
 イ 空中に停止することばかり。
 ウ 前羽と後ろ羽をすばやく動かすことができる。
 エ 急角度に方向を変えることができる。
 オ ななめ前方に向かって羽を打つようにしている。

イ

エ

- (2) ②「いかば」と同じ意味の言葉を次の中から一つ選び、☐に記号で答えましょう。

- ア まるで イ ちがつとも
 ウ だぶん エ だしがた

エ

- (3) ③ ☐にあてはまる言葉として最も合うものを次の中から一つ選び、☐に記号で答えましょう。

- ア そりで イ しから
 ウ たそえは エ ところが

ア

- (4) ④ ☐でん蔀の姿がまともでなげられているでん蔀が二つあります。一つは、体の形のことを答えた ☐でん蔀です。それでは、もう一つは何でん蔀ですか。 ☐にでん蔀の番目を一つ書きましょう。

六

でん蔀

★質問（これはテストではなくてノートです。思ひだこを答えましょう。）

あなたが上の文章の⑤語をノートに写したところ、後で思ひだしたときわかりやすくまとめるために、どのようになげを書きますか。次のア～オの中から二つ選び、記号を○で囲みましょう。

- ア とんぼどちらの飛び方のせいか、表にして書く。
 イ とんぼの姿をかいて、言葉の説明を加える。
 ウ いちばん大切なでん蔀をまともな書き方を写す。
 エ わからない言葉の意味を辞書で調べ、ノートに書く。
 オ その他 このふたつは別な書き方だから

【分野】説明的文章

【内容】細部の正確な読み取り

【出題のねらい】文章に即して内容を正しく読み取り、指示語の示している言葉や内容を的確に指摘する。

【採点基準】二つともできて正解。

【分野】説明的文章

【内容】語句の意味・使い方

【出題のねらい】語句にはさまざまな意味があることを理解し、文章中での正しい意味をとらえる。

【分野】説明的文章

【内容】接続語の使い方

【出題のねらい】前後に書かれている内容を理解し、適切な接続語を使う。

【分野】説明的文章

【内容】段落相互の関係

【出題のねらい】段落相互の関係をとりえ、文章の中心的事柄を読み取る。

【分野】説明的文章

【内容】内容の整理

【出題のねらい】文章理解における思考の過程を、適切な方法で表現する。

【採点基準】これではなければならないという正解はない。

資料●調査票（到達度テスト・小学5年生国語）

③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【夏だからかっている犬のタロを通いかけて、たつちゃんは「この先 ゆめとまりはいらないください」と書かれた立てろだのおくの小道にはいつともなりました。】

たつちゃんは、その小道にはいつていきました。ゆつくり歩かないと、ササの枝が顔にはねかえつてきます。やぶはますます深くなつて、たつちゃんの背だけの二倍はあるでしょう。そのやぶの中を、せまい小道はずつと登り坂で、上へ上へと続いているのです。ようやく少し平らな道になつたと思つたら、いきなりササやぶがなくなつて、静かな静かな松林の中にまぎっていました。

足もとには、かれた松の落葉が ① と積もつていて、なんだかいい気持ちでした。上を見あげると、高いところのほうで秋のお日さまがちらちらとゆれていました。

さあつと風が吹きふりました。坂をさがつてきたたつちゃんの汗が、すつとひっこみしました。松林に吹く風は、びつくりするほどやさしくやわらかに響きました。

そのまま、なだらかな松林の丘を登つていくと、右下の谷間に、ちらちらと ② が見えてきました。そこは緑の葉がきれいに並んでいて、とても暖かそうでした。

③

しばらくのぞきこむように眺めていたたつちゃんは、そこまでいつてみようかな、と思いました。

松林のはずれに、ほつたりと日の当たつた枯れ草の土手がありました。たつちゃんは、いい匂いのするみかふかの草に膝をおろしました。それから、照いきつてあおむけにはねここんで、うーんと手足を伸ばしました。

なんともいえないいい気分でした。目をふると、そのまま眠つてしまふうでした。でも、たつちゃんはむつくりと起きあがりました。

④

そうです。たつちゃんは、いつたをきで町の真ん中ではいました。切り通しの道は、丘の上の団地へ接する近道ですから、このあたりには、コンクリートでできた大きなアパートが、いくつも並んでいくてはいいのです。

たつちゃんは、大いそぎで松林はもとるど、いざいざ高い足踏らしのきくところまで駆け登りました。でも、ここから見えるのは、たつちゃんの知らない田舎の景色でした。

……………〈中略〉……………

たつちゃんは、ちろつとさるえました。寒くなつたのではなく、なんだか、あつけないといにはあつていきました。という気がしたのです。

⑤

いそいで、ちろつと登つてきて、やぶの小道のほうへ駆け登りました。そしてやぶの前で立ちどまってみました。

⑥ 小道が見つかからないのです。

(佐藤あさ子「この先ゆめとまり」とい)

(注) *1 この先＝木の幹を這の先

*2 道＝道のこと

*3 切り通し＝山や丘を切り開いて通つた道

- (1) ☐ ㊦ にあてはまる言葉として最も合うものを次の中から一つ選び、☐ に記号で答えましょう。

- ア そつくり イ ゆつくり
ウ ちつくり エ ひらひら

ウ

- (2) 「おもてん風が秋をわたりました。」とありますが、このときの風はどのようなものでしたか。その説明として最も合うものを次の中から一つ選び、☐ に記号で答えましょう。

- ア たつちんをこぼらせる、いじわるな風
イ たつちんの体を温める、とてもやさしい風
ウ たつちんを喜ばせる、楽しくゆかいな風
エ たつちんを気持ちよくさせる、さわやかな風

エ

- (3) 文章の中の ☐ ㊢ ☐ ㊣ ☐ ㊤ にば、たつちんが心の中で考えたことが入ります。次の㊦～㊨を入れるとき、このような順番になりますか。最も合うものをア～エの中から一つ選び、☐ に記号で答えましょう。

- ㊦ = (たいくんだ。ほく、すべにかせらなくちやいけなみたいた)
㊧ = (すこたまだ)
㊨ = (たぶん、こんなところにはこんな静かな山や谷があるなんて、ちよつとくんだ)

- ☐ ㊢ ☐ ㊣ ☐ ㊤
- ア ㊦ → ㊧ → ㊨
イ ㊧ → ㊦ → ㊨
ウ ㊧ → ㊨ → ㊦
エ ㊦ → ㊦ → ㊨

ウ

- (4) この文章の中で、たつちんさんの気持ちはどのように変わりましたか。最も合うものを次の中から一つ選び、☐ に記号で答えましょう。

- ア 心配 ↓ さわやか
イ ゆつたり ↓ 不安
ウ すつかり ↓ 喜び
エ のんびり ↓ つかれ

イ

【分野】 文学的文章

【内容】 語句の意味・使い方

【出題のねらい】 様子を差すのにふさわしい語句を選び、文脈にそって適切に使う。

【分野】 文学的文章

【内容】 細部の読み取り

【出題のねらい】 叙述の細かい点に注意して、場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読み取る。

【分野】 文学的文章

【内容】 心情の変化の読み取り

【出題のねらい】 場面の様子の移り変わりや、人物の気持ちの変化を想像しながら読み取る。

【分野】 文学的文章

【内容】 心情の変化の読み取り

【出題のねらい】 場面の様子の移り変わりや、人物の気持ちの変化について、内容を大きくまとめて読み取る。

資料●調査票（到達度テスト・小学5年生国語）

- (5) 「立ちすくみずだ。」とありますが、このときたつちさんのおうすはどのようなのだでしょうか。最も合うものを次の中から一つ選び、☐に記号で答えてください。

- ア どうやってタロを戻つてよか、立つたまま考えだ。
 イ どうしていいかわからなくなり、立つたまま動けなくなつた。
 ウ ところをたつちさん思い出すように立つたりすわたりした。
 エ もう一度田舎の景色を見たいと、背のびをして立つた。

イ

- (6) 「小道が見つからないのです。」とありますが、たつちさんは、この後どうなると思いますか。自由に想像して五十字くらいで書きましょう。

【解答例】

た	つ	ち	や	ん	が	歩	き	回	つ	て	小
道	を	さ	が	し	て	い	る	と	、	犬	の
タ	ロ	に	会	い	ま	し	た	。	そ	の	後
を	つ	い	て	い	く	と	、	小	道	が	見
つ	か	り	ま	し	た	。					

五十字

- 4 次の問題に答えてください。

- (1) 〈例〉にならって送りがなに合うように、☐に漢字の読みを二通り書きましょう。

① 生	{	う	まれる	① 着	{	つ	く
		い	まれる			き	る
② 冷	{	つめ	だる	② 寝	{	おほ	える
		ひ	える			た	める

【分野】文学的文章

【内容】細部の読み取り

【出題のねらい】内容の理解に必要な語句の意味を、文脈の中で正しくとらえる。

【分野】文学的文章

【内容】続き話の創作

【出題のねらい】自分の理解した内容に基づいて、自分の感じ方をもとに物語の続きの展開を予測して表現する。

【採点基準】主人公がその後どうなったかについて、物語の内容や主題をふまえて書いていけば正解。字数は「五十字くらい」という指示を守っているかどうかを見るため、三十字から六十字を正解とする。

続きの内容としては、主に次の三点。

- ①主人公が「小道をさがす」行為について書いている。
- ②「小道が見つからない」という主人公の不安な心情について書いている。
- ③ファンタジーとしての特徴を理解し、たとえば、非現実の世界として物語の続きを展開させている。

【分野】言語事項

【内容】漢字の読み

【出題のねらい】送りがなに合せて、漢字を二通りの読み方で読む。

【採点基準】いずれの問にも、二つともできて正解。

(2) 次の□の中にあてはまる漢字を書きましょう。

① 本を **借** りる。

② **笛** を吹く。

③ **大臣** になる。

④ こみを **拾** う。

⑤ **不便** な方法。

(3) ①と②はローマ字の読みをひらがなで、③と④は絵の名称をローマ字で□に書きましょう。

①

k i t t e

きって

②

z i d d s y a

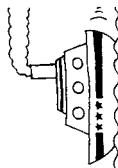
じどうしゃ

③



n e k o

④



h u n e

【分野】言語事項

【内容】漢字の書き取り

【出題のねらい】第三、第四学年に配当されている漢字を正しく書く。

【採点基準】細かい止め、はね、はらいなどについては不問にする。

【分野】言語事項

【内容】ローマ字の読み・書き

【出題のねらい】簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書く。

【採点基準】①②漢字、カタカナで書いているものは不正解。③「じとーしゃ」は不正解。④大文字と小文字の混在は不問にする。④「f u n e」も正解。

資料●調査票（到達度テスト・小学5年生国語）

(4) 〈例〉にならって、に漢字を入れて、上にある意味を表すしゅく語を作りましょう。

- 〈例〉からだの温度…………… 体 温
- ① ともしたい^{ともほいたい}友達…………… 親 友
- ② いちばんはじめ…………… 最 初
- ③ はたらくこと…………… 労 働
- ④ 火をけすこと…………… 消 火

(5) 〈例〉にならって、①～④の——線の言葉を国語辞典で調べるときに直して に書きましょう。

〈例〉馬が走^はっている。

① あなたを信^{しん}じます。

② 先を争^{まが}わないでください。

③ 行動を改^かめれば静^{しず}かす。

④ つくえの上に本を置^おきます。

走 る

信 じる

争 う

改 める

置 く

問題は「れ」で終わります。

【分野】言語事項

【内容】熟語の書き取り

【出題のねらい】言葉の意味をもとに簡単な熟語を書く。

【採点基準】細かい止め、はね、はらいなどについては不問にする。

【分野】言語事項

【内容】活用の理解・辞書の利用

【出題のねらい】活用について意識し、国語辞典で調べられるように語句を終止形にする。

【採点基準】送りがなの誤りや、「改める」と「改まる」のように、他動詞と自動詞を間違えたものは、不正解とする。

3. 調査結果解説

1. 音声言語

①(1)の出題のねらいは、話の中心点を聞き取ることである。通過率は「決まった時こくに食事をする事」が90.3%、「栄養のバランスがとれた食事をする事」が79.1%であった。比較的、期待通りの結果であった。誤答傾向としては、「野菜をたくさん取る事」「ビタミンを多く取る事」など話の中心ではない部分を答えたり、「最近、野菜を食べずに肉ばかり……」という食事傾向への具体的な注意事項を答えたりする児童が多い。指導のポイントとしては、「1つ目」「2つ目」という順序を表す言葉に注目させて、2つの内容から話が構成されていることに気づかせることが大切である。そして、具体的な言葉と抽象的な言葉とのかかわりがあることを指導する必要がある。特に、「肉ばかり食べる」「ビタミンなどを多く含む野菜」と「栄養のバランス」とのかかわりを考えさせ、単語ではなく文で説明できるようにしたい。

①(2)は、質問の内容のまとめ方や準備の仕方を理解することをねらいとした。通過率は50.4%で、正解「ア・ウ」（完全解答）のうち「ア」を選択することができて「ウ」を選択できない児童が多く、その場合、「エ」を誤答として解答する傾向がみられた。これは、疑問に思うことを絞るという学習経験がないことやクラス全員の疑問すべてを質問することの意義を肯定する意識傾向が根強いためと思われる。指導のポイントとしては、何のために質問を絞るのか話し合わせたり、相手の立場や気持ちを考えて相手意識を持たせる指導が必要になる。そのために、栄養士の先生がどんな立場なのか、どんな仕事をしているのか、質問する職業への認識を深めさせるこ

とが大切である。その上で、質問をどのように絞って準備をすればよいか考えさせたい。

①(3)は、相手や場に応じ、内容の軽重を考えて質問することをねらいとした。通過率は60%にやや足りず、予想よりやや低い結果である。誤答傾向としては、「ア」を選ぶ児童が多かった。これは、(2)と同じように栄養士の先生という職業や仕事について理解が不十分であるか、単に自分の質問したいことを選択しているのか、どちらかであろう。食事の仕方が話の中心であることに気づかせたり、栄養士の先生の視点に立たせたりする指導が必要である。例えば、ロールプレイングを取り入れ、相手の立場や考え方を考えさせることも大切である。

①(4)は、自分の考えを明確にし、整理して表現することをねらいとしている。自分の考えを書けている正解率は、約40%である。本文の内容をくり返し述べている解答は準正解としたが、それを入れた通過率だと約80%になる。つまり、通過したものの半数が本文の再構成であることがわかる。誤答の中には、大幅に指定された字数をオーバーしていたり、足りなかったりするものがあり、オーバーしているものは自分の考えになっているものが多いが、不足しているものは内容の再構成にとどまっているもの、食事の仕方という観点を逸脱しているものが多い。指導のポイントとしては、問題文に示されている食事の仕方についての問題を自分の生活と照らし合わせながら考えさせることが大切である。つまり、自分の問題として自分に引きつけて書いているかが、理解と表現の違いの重要なポイントになってくる。そのためには、相手の話から自分の生活を振り返り、自分の課題を持たせることが大切である。

(田島亮一 東京都杉並区立新泉小学校教諭)

2. 説明的文章

②(1)は、文章の叙述に即して内容を正確に読み取り、指示語の示している言葉や内容を的確に指摘できるかどうかを問う設問である。

指示語の示す内容の把握は、中学年の中心的な指導内容の1つであることを考えると、52.4%という通過率は低い。

誤答傾向としては、示された指示語の直後に書かれている内容である「ア」を選んでいる児童が多かった。

指示語は、前の内容を受けて使われるという指導を徹底する必要がある。

(2)は、文脈の中で、語句の意味をとらえることができるかを問う設問である。「いかにも」には、「①どう見ても」、「②なるほど、たしかに」の2つの意味があるが、文脈の中でとらえると②の意味となる。

通過率は60.1%で、誤答の8割以上が、「ア」の「まるで」を選択している。「いかにも」という言葉は、子どもが日常で使っている言葉ではないために、意味をとらえにくかったということが誤答の要因として考えられる。

文脈の中で、よりふさわしい意味をとらえる学習は、今後もていねいに行われるべきである。

(3)は、前後に書かれている内容を理解し、適切な接続語を使うことができるかどうかを問う設問である。

通過率は85.1%で、おおむね満足できる結果であった。

誤答の傾向としては、半数が「たとえば」を選択している。後に続く内容が具体的な実験内容であるために、この言葉を選択してしまったと考えられる。

基本的な接続語の使い方は、中学年で定着をめざしたい。

(4)は、段落相互の関係をとりえ、文章の中心的事柄を読み取ることができるかどうかを問う設問である。

通過率は20.3%と、大変低いものとなった。この問題を考えるためには、次の2つのことを理解することが必要である。1つは、問題—実験・観察—結論という論の展開に対するおよその理解。もう1つは「このように」が、それまでの内容をまとめるときに使われるということの理解である。

誤答の7割は、第5段落を選んでいった。この段落は、観察の結果を具体的に書いている段落であり、まとめにはなっていない。しかし、児童は具体的な数値の提示につられて選択してしまったということが考えられる。文章の段落相互の関係については、意図的な指導の積み重ねが必要であることを痛感する。

(1)～(4)の設問のほかに、「質問」では文章理解の過程を、児童がどのような方法で表現しようとするかを尋ねた。この質問は採点から除外してある。

理解力の高い児童ほど、自分の理解をより適切な形で表現しようとするのではないかという仮説に基づいて設問が設定されている。つまり、対比的に述べられている文章の内容をまとめるには、対比されている内容をとらえやすいような形で表現しようとするのではないかということである。

およそのことではあるが、「ア」を選んだ児童は、②(1)細部の正確な読み取りの問題や、②(3)接続語の使い方を問う問題で正解する割合が高いということがわかった。つまり、文章の内容や流れを正確にとらえる力を身につけている児童が、「ア」を選択する傾向がみられたということである。

この「質問」に関しては、「学習に関する意識・実態調査」との連携も図り、今後さらに綿密な分析が必要である。

3. 文学的文章

③(1)は、文脈に沿って語句を適切に使うことができるかを問う設問である。

通過率は68.2%であった。積もる落ち葉は児童にとってイメージしやすいものであろう

が、あまり高い数値とはならなかった。

誤答の傾向をみると「イ ゆっくり」、「エ ひらひら」を選んだ児童が誤答全体の4割ずつみられた。落ち葉のイメージがこれらの言葉に結びついてしまったものと考えられる。文脈に沿って適切な語句を使用したり、使われている語句の意味をとらえたりするのは、文章理解の基本である。今後もよりよい指導が必要である。

(2)は、文章の細部を的確に読み取ることができるかを問う設問である。

通過率は64.4%であった。誤答をみると、9割が「イ」の「やわらかな風」を選択している。これは、設問箇所の直後に「風が……やわらかに響いた」という叙述があるためと考えられる。「イ」は「体を温める」というところが明らかな間違いなのであるが、本文はもとより、設問の選択肢に対してもていねいな読み取りが必要になる。

(3)は、場面の様子や人物の心情の変化を問う設問である。文章全体の流れを把握して答えを求めなければならないために、難度の高い設問ではないかと考えていたが、通過率は65.6%と、予想以上に好結果となった。

誤答の傾向をみると、「イ」が6割を超えている。「すてきだな」から「たいへんだ」の流れはおおよそつかんでいるが、「ちょっとへんだ」というその過程に入るはずの微妙な気持ちが十分にとらえられていないための誤答であろう。

(4)は、登場人物の心情の変化を問う設問である。

通過率は63.5%で、まずまずの結果であるといえる。誤答の傾向としては「ア」が7割に近く、文章の展開とは反対の流れを選択している。

文学的文章の読みの学習は、場面ごとに区切って進めるという方法が多い。その結果、文章全体の流れをとらえる学習が十分でなくなるというのが今後の課題であろう。

(5)は、語句の意味を文脈の中で的確にとらえることができるかを問う設問である。

通過率は57.6%と、あまり高くなかった。

誤答では、「ウ」が半数に近かったが、これは前後の文脈から考えようとしている子どもの姿の表れとしてとらえることができる。「立ちすくむ」という語句の意味そのものを理解していることが大切であるが、今までに出会わなかった語句の意味を文脈の中で予想してあてはめてみるという読みの活動は大切である。

(6)は、自分の理解した内容に基づいて、物語の続きの展開を予想して書けるかを問う設問である。

通過率は6割に満たなかったが、白紙の少なさから、どの児童にも書こうという意欲はみられた。

書かれ方の傾向としては、登場人物になって一人称で書かれたものと、作者になって三人称で書かれたものとに、大きく二分された。文字数の制限など、採点基準をゆるめれば、通過率はさらに上がると予想できる。

(青木伸生 筑波大学附属小学校教諭)

4. 言語事項

④(1)の出題のねらいは、送りがなに合わせ、漢字を二通りの読み方で読むことである。解答傾向としては、「冷」の通過率が83.3%と高く、「覚」が41.6%と低かった。これは、「さめる」という読み方が読みかえ漢字として4年生では十分指導されていないことが原因であろう。また、「着」は66.1%と予想より通過率が悪かったが、「つく」「きる」の送りがなが一音で、読みが連想しにくいことが原因として考えられる。文章を作らせる中で送りがなを指導することが大切であろう。

(2)は、第3・第4学年に配当されている漢字を正しく書くことが出題のねらいである。「借りる」「笛」「大臣」が70%前後の通過率であり、「拾う」「不便」は60%前後の通過率である。誤答傾向としては、「拾」が「給」「捨」や、「臣」が「巨」、「便」が「更」「使」「俛」などに誤るケースが多い。やはり、部首の間

違いや類似したつくりとの間違いが多い。指導のポイントとして、部首が意味を表していること、漢字の意味と部首とのかかわりなどをていねいに指導することが必要である。

(3)は、簡単な単語について、ローマ字で表記されているものを読み、また、ローマ字で書けるかどうかをみることをねらいとしている。「kitte」が50%弱、「zidôsyā」「neko」「hune」が35%前後という通過率で、正解する割合が低かった。誤答として多いのは、「neco」「nico」「huno」「hone」のように母音や子音の表記が間違っていたり、「heko」のように「n」と「h」との区別ができていなかったりするものである。また、ローマ字を読めるが書けない解答も多かった。この問題では、4問ほとんど書けていないケースが多くみられ、ローマ字の指導時数が十分ではない様子がうかがえる。日頃からローマ字を意図的に使用したり、ローマ字表を掲示して言語環境の一部として位置づけておいたりするなど日常的な指導が必要であろう。

(4)のねらいは、言葉の意味をもとに簡単な熟語を書くことである。通過率は「親友」と「最初」が約50～60%であるが、「労働」は約30%と低く、逆に「消火」は約80%と高かった。誤答傾向としては、「親」を「新」、「働」を「動」「苦」、「初」の衣へんを示すへんと間違えて書いたケースが多かった。同じ音の間違いやすい漢字の意味と使い方を指導することが大切である。また、部首の指導も必要であろう。

(5)は、活用について意識し、国語辞典で調べられるように語句を終止形にできるかどうかをみた。「信じる」「改める」「置く」は通過率が高かったが、「争う」は47.3%にとどまった。誤答には、「争そう」のように送りがなの間違い、「争い」「争わない」のように終止形になっていない間違いが多くみられた。指導のポイントとしては、終止形の形式に多く触れさせるために、国語辞典を日常的に引くようにすることが大切である。

(田島亮一 東京都杉並区立新泉小学校教諭)

4. コメント

[1]

尾木和英 (東京女子体育大学教授)

最初に通過率に関する全体的な状況をみたと、次に内容領域ごとに、検討が必要であると思われるもの、問題ありと考えられるものを中心に考察を加えることとする。

1. 通過率の概要

本調査の通過率を全体的にみると、80%を超える数値を示したものも5設問あるが、通過率60%に達していない設問がかなりの数に上っている。

正解率でみると、60%に達しないものは17設問におよび、全設問のほぼ半分になる。この結果は、設問の内容や出題の仕方とも関係するので一概に判断を下すことは難しいが、50%に達しないものについての着目とともに、1つの問題提起として受け止める必要があろう。

内容領域別に通過率をみると、同じ領域の中でも設問によってばらつきのあることが認められる。調査結果の検討・活用の際には、内容領域全体としての把握と同時に、設問の内容に即して、学習状況にどのような傾向が認められるか、きめ細かな検討を加えることが求められる。

比較の上では、「文学的文章の読み」に関する内容は、57%から68%の間で平均した通過率を示している。

逆に全体的に低い数値を示しているのが言語事項に属す「ローマ字の読み・書き」である。提出されている4設問の通過率の平均は37.6%となっている。ローマ字の読み書きに関しては、コンピュータ使用の際の入力を中心に、学習活動において必要とされる機会が少なくない。それだけに、この結果について

はさらにつつこんだ検討を加えることが求められよう。

2. 音声言語に関して

①(1)の「話の内容の聞き取り」に関しては、それぞれ90.3%、79.1%の通過率を示している。「1つ目は」「2つ目は」がほぼ聞き取れていることから、話の内容を聞き取る基礎的な力についてはついていると考えてよからう。

これに対して、①(2)の質問の仕方に関する設問の通過率は50.4%にとどまっており、質問の内容のまとめ方や質問の仕方を理解することについては十分とはいえない面があると言えよう。

①(4)の設問は、聞き取ったことを基にしてという点では音声言語に属すが、30字くらいにまとめて書くということで、書くことに関する力もかかわっている。採点基準にその点が考慮されているが、通過率は78.9%となっており、自分の考えを明確にして表現する力はほぼついていると考えられる。

3. 説明的文章の読み

②(1)は指示語の内容の読み取りの設問である。通過率が52.4%にとどまっていることから、文脈の正しい読みの力は、十分にはついていないものと考えられる。

②(3)の接続語の用法に関する設問は、通過率85.1%となっており、前後の内容から考えて適切な接続語を使用する力についてはついていると考えられる。

問題があるのは②(4)の段落相互の関係に関する設問である。「なぜ、こうした器用な飛

び方をするのでしょ

うか」とい

う問

いかけを受けている段落の理解に関して、通過率は20.3%となっている。低い通過率にとどまった理由として、この設問の問いは単純ではないので、あるいはこの設問の意味を理解できなかった者が含まれているかもしれないが、やはり、第三段落の「まず、頭に思いうかぶのは」、第四段落の「しかし、体の形だけでは」といった表現に着目し、各段落に表現されている内容と段落相互の関係を正しく読み取る力が十分についていない者が多数であったものと考えられる。

4. 文学的文章の読み

③(1)から③(4)までの設問の通過率はすべて60%台であり、この数値の解釈については意見の分かれるところであろう。

③(5)は通過率57.6%となっており、文脈の理解、語の意味を理解しての人物の様子を読み取りの力について、必ずしも十分とは言えないことを示している。

③(6)は、①物語の内容の理解に立ち、②その後の展開について想像し、③50字程度の文字数でまとめる、という3つの要素を持った出題である。設問の内容が単純ではないだけに、56.7%の通過率を一概に低いとすることはできないであろう。

5. 言語事項について

漢字の読みでは、④(1)の③が通過率41.6%となっている。その漢字を読むことができるかどうかは、一般的に、その読みに触れる機会の頻度によって左右される。読みが難しいと思われる漢字については、その扱いに配慮

が必要であることを示唆している。

漢字の書き取りに関しては、1問を除いて、60～70%台の通過率となっている。

④(2)の⑤は、通過率55.7%となっている。その漢字が書けるかどうかは、一般的に、その漢字の画数や構成に関する難しさ、その漢字を含む語に触れる機会、読みとの関係での難しさ、などによるところが大きいものと考えられる。漢字の指導の際に、そういった点も視野に入れることが求められていることを示唆している。

ローマ字の読み・書きについては、30～40%台の通過率となっており、力がついていないことを示している。

ローマ字は、案内板の表示や情報機器における使用など、児童の生活にとって必ずしも遠い存在ではないが、仮名・漢字に比べれば使用頻度が低い。それだけに、指導計画の工夫等によって、学習機会を設定することが重要であることを示唆している。

熟語の書き取りの通過率は、④(4)の①が48.3%、④(4)の③が30.8%となっており、力がついていないことを示している。

熟語の書き取りに関しては、その熟語が理解されていない場合、熟語は知っているが、漢字を正確に書くことができない場合があるものと考えられる。この結果は、両面からの指導の必要を示唆するものと言えよう。

④(5)は、活用の理解・辞書の利用に関する設問であるが、1問を除いて69～83%の通過率となっている。

④(5)の②が通過率47.3%となっている。活用形によって、助動詞との関係などで終止形が判断しにくい場合が考えられる。辞書を用いての学習機会といった工夫が必要であることを示唆するものと言えよう。

[2]

大熊 徹 (東京学芸大学教授)

1. 調査問題と採点基準について

調査問題の難易度は、小学校5年生を対象とする問いとしては標準的であり、正解や許容範囲を示す採点基準も多方面からの配慮が行き届いている。

ただし国語科では、記述式の解答に関する採点基準が殊の外難しい。たとえば、③(6)の採点基準などである。この小問は、「正解」を比較的幅広く許容しているため、評価基準は「正解」と「不正解」の二通りしか設定されていない。それはそれで問題はないのだが、たとえば①(4)のように、「準正解」を設定することもできるのではないかと考えられるところである。

2. 通過率からみる全体的傾向

全般的に通過率の高い領域は③の文学的文章の読みである。①音声言語領域の通過率も各小問とも50%以上を示し、比較的安定している。

それに対して、②説明的文章の読みの領域と④言語事項の領域は、結果にかなりバラツキがみられる。とりわけ、②説明的文章の読みの通過率は、最高85.1%から最低20.3%までと幅が広い。また、④言語事項領域では、特定の分野の通過率がきわめて低いことが気にかかるところである。

以下、領域ごとに調査結果について考えてみよう。

3. 音声言語領域の調査結果

①は、話を聞く力と聞いたことを基にして考えたことを書く力を問う問題である。小学校、中学校、高等学校の新学習指導要領の国

語科の教科目標に「伝え合う力」という文言が加えられたことからわかる通り、これからの国語教育においては、話をしたり、聞いたり、話し合ったりする力、つまり、コミュニケーション能力の育成がきわめて大事なものととなる。

とりわけ、これからは聞く力が大事になる。遠藤栄（放送大学客員教授）によれば、アメリカの大学のテキストには「聞き手がコミュニケーションの責任の51%を負う」と述べられているそうである。聞き手の存在の重要さが指摘されているのである。

さて、①の通過率を各小問ごとに見てみよう。(1)が90.3%と79.1%、(2)が50.4%、(3)が56.3%、(4)が78.9%と全般的に高い傾向を示している。

相対的にみてやや低い(2)は、子どもたちが今までにいかなる学習をしてきたか、教師がいかなる指導をしてきたかが選択項目に影響を与えてしまうことも考えられる。たとえば、選択肢「イ」は誤答ではあるが、このような指導を受けた子どもも少なからずいることであろう。しかし、そのような場合でも、設問の文言「クラス全員でどのようなことをしておけばよいですか」を考慮すれば、選択肢「イ」はふさわしくないことになるのである。

同じく(3)について考えてみよう。選択肢「ウ」は問題ないが、もう1つは選択肢「ア」か選択肢「イ」かが問題となる。そこで、考えなければならないことは、質問をする相手が栄養士の先生ということである。栄養士の先生に対する質問なのであるから、選択肢「ア」の「食事以外で注意しなければならないこと」よりも、選択肢「イ」の「食事の仕方」で注意することは、そのほかに」のほうがふさわしいのである。

いちばん高度な問題は(4)であるが、これは、採点基準に「準正解」まで設定してあるため

に妥当な結果が得られたのであろう。

4. 説明的文章の読みの調査結果

第15期中教審の第1次答申（1996年7月）には、初等中等教育で育成を重視する資質・能力の1つとして「論理的思考力や科学的思考力を育てること」とある。また教課審の答申（1998年7月）には、読むことの領域の具体的事項として「目的や意図に応じて、要点や要旨などを読み取る能力」の育成を重視することが示されている。②はこれらにかかわる問題である。

さて、②の通過率は、かなりのバラツキがみられる。接続語を考える問題③の通過率85.1%や、文章の詳細な部分までを正確に読み取る力をみる①、②の通過率52.4%、60.1%と比較して、④の通過率がきわめて低い。④は、文章全体の段落構成、具体的にいえば、課題解答方式の段落構成をとらえる力をみる問題である。このような問題を解く力としては、何よりも文章全体を視野に入れた上での論理的思考力が要求される。そのような力がやや不十分という結果である。

この結果は、1994年2月に行われた文部省（当時）初等中等教育局の「教育課程実施状況に関する総合的調査研究」の調査結果とかなりの点において符合する。調査報告書（1997年12月）の該当箇所を引用しよう。

「文章の構成や叙述に即して細部を正確に読み取ることは満足できる状況であったが、意見と事実を読み分けたり、要旨をとらえてそれを自分の言葉で文章表現したりすることは、やや不十分であった。」（p.71）

5. 文学的文章の読みの調査結果

③は登場人物の心情や場面の情景を豊かに想像して読む力、さらに、読んだことを基にして、豊かに想像したことを文学的に書く力を問う問題である。

先に紹介した教課審の答申（1998年7月）では、従来の国語科の指導のあり方を「文学的な文章の詳細な読解にかたよりがちであった」と指摘し、その指導のあり方を改めるように指示している。

しかし、③の通過率をみる限りにおいては、いずれの小問の通過率も高く安定している。これまでの国語科の指導によって子どもたちに文学的な文章を読む力が育ってきたことを示しているといえよう。

やはり、教課審の答申（1998年7月）が指示しているような「読書に親しむ態度を育てる」素地はできていると言えよう。

6. 言語事項の調査結果

④は、①漢字の読み、②漢字の書き取り、③ローマ字の読み・書き、④熟語の書き取り、⑤国語辞典の利用・活用の理解を問う小問からなっている。

漢字の書き取りは比較的通過率が高い。これも、先に引用した「教育課程実施状況に関する総合的調査研究」の調査結果と符合する。他の小問は、通過率にバラツキが目立つが、とりわけローマ字の読み・書きの通過率が低い。これは、社会的に英語教育への注目度が高まっている影響から、ローマ字指導が軽視されていることの表れとも考えられる。